親としての環境作りへの実践・行動力

先の「あるがままの子育て」の著者に、厚かましく、息子さんを取り上げたＮＨＫＴＶ放送のビデオの借用をお願いしたところ、昨日届き早速見させていただいた。

見て改めて、母親はやはり凄い実践家。例えばその一例として、地域で自立し生活して行くには、「地域に我が子のことを分かってもらう努力が必要。その努力は親にしかできない」と、地域の方々に理解・支援を得るために、写真や家族の動向まで記載した通信誌数百枚を手渡しで地域に配布している。まず、親として出来ることの工夫・実践の数々（ぶどう社：「自閉症の息子と共に……ありのままの子育て①、②」を参照ください）。

一方、以前に耳にした話だが、ある作業所の年記念誌作成の折、利用している青年たちは自分の顔写真が載るのはＯＫ。念のために親に聞くと、プライバシーを理由に半数近くが反対だったとか。出来た記念誌を見て、青年たちは「どうして自分の写真はないの？」と職員に聞いたとか。我が子のことを理解し、地域で生きて行ける社会であって欲しいと願い、恐らく何かの折に口する親が、記念誌すら顔写真が載ることを拒否する現実。

この両極端な話から、プライバシーって一体何なのか、親の役割って何かを改めて考えさせられた。

この母子は、全国各地から講演を依頼されているようであるが、拝聴する親たちが、単にお二人を我が子の将来の羨望の姿として見るのでなく、如何に地域に理解・支援をいただくために親として行動してきたか、今も行動しているかの姿勢とエネルギーを学んで欲しいと願わざるをえない。

ビデオでの母親の「地域に我が子のことを分かってもらう努力は、親にしかできない」という言葉、弟さんの「兄はやろうと思ったことをチャレンジするところが凄い。また、その環境を作る親も凄い」の言葉が印象に残っている。

ビデオを見て、「障害は、周りが作り出すことが多い」ということを、改めて認識させられた。しかしそれだけに、周りが変われば、障害児・者の抱える社会的問題も殆ど解決するだけに、私自身を含め、障害児・者からの問題を、周りの一人一人自身の問題として検証し、社会のあり方を熟慮し続けたいと改めて思った。

後日談：当記事を目にした著者から、「ドッチが人権侵害か答えは明白でしょう。(今日はちょっと強気な私です)」とのメール。曖昧な表現をした私への皮肉かな。

（2004 年 09 月 29 日 記）